

平成 28 年 11 月の解説（府県天気予報）

【11 月の天候状況】

上旬は、大陸の高気圧が日本付近に張り出すことが多かった一方、北日本では低気圧が数日の周期で通過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となりました。このため、全国的に天気は数日の周期で変わり、北日本では低気圧や寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多くなりました。特に、6 日頃は冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流れ込んだため札幌の日最深積雪が 23cm となるなどこの時期としては大雪となりました。一方、西日本では高気圧に覆われ晴れの日が多くなりました。気温は、大陸からの寒気が流れ込みやすかったため、北日本から西日本で低くなりました。

中旬は、本州付近は低気圧と高気圧が交互に通過したため、北・東・西日本の天気は数日の周期で変わりました。北日本では低気圧の通過後は、大陸からの寒気が流れ込み、日本海側を中心に曇りや雨または雪の日があったものの、気温は平年並みとなりました。一方、西日本を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、西日本と東日本太平洋側の降水量は多く、気温は西日本でかなり高くなり、東日本でも高くなりました。沖縄・奄美では、日本の南海上の暖かい高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温はかなり高くなりました。

下旬は、シベリア高気圧が強かった一方、日本付近は低気圧や前線が短い周期で通過しました。このため、全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。特に、沖縄・奄美では低気圧や前線の活動が活発となった影響で、降水量はかなり多くなりました。また、24 日は日本付近に非常に強い寒気が流れ込み、本州の南岸を低気圧が東進したため、関東甲信地方の広い範囲で季節外れの雪となり、東京では 11 月としては 1875 年の統計開始以来初めて積雪を観測したほか、宇都宮、千葉など関東甲信地方の 7 地点で 11 月としての日最深積雪の記録を更新しました。また、北・東日本を中心に気温が低くなり、アメダスを含む 60 以上の観測地点で日最低気温が統計開始以来 11 月として最も低くなりました（気温観測地点はアメダスを含めると全国で 931 地点）。

月平均気温は、北日本ではかなり低くなりました。紋別（北海道）では、月平均気温の低い方からの 1 位の値を更新し、広尾（北海道）では 1 位タイの値を記録しました。一方で、沖縄・奄美で月平均気温は高くなりました。月降水量は、東日本日本海側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で多くなりました。月間日照時間は、北日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側で少なくなりました。むつ（青森県）では月間日照時間の少ない方からの 1 位の値を更新しました。一方で、東日本日本海側と沖縄・奄美で月間日照時間は多くなりました。

【11 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^{（注）}より 1 ポイント低い 84%で、明後日予報は例年値と同じ 81%でした。各地方の適中率では、明日予報については、四国地方で 7 ポイント低くなった他は、概ね例年と同様でした。明後日予報では、沖縄地方で 10 ポイント高くなった一方で、北陸地方と四国地方で 6～7 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.4 となり、全ての地方で例年値より小さくなりました。特に中国地方では、例年値より 0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4 小さい 1.2 となり、全ての地方で例年値以下となりました。特に北海道地方では、例年値より 0.5 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1 月の天気予報の利用にあたって】

1 月は、冬型の気圧配置となって日本海側の地方では風が強まり雪や雨の日が多くなりますので、日常から大雪や、北日本では暴風雪に備えて下さい。また、太平洋側の地方では晴れる日が多くなり、空気が乾燥して火災が起きやすくなる一方で、日本の南岸を低気圧が通過する場合などには雪が降り、少しの積雪でも交通機関の運行などに大きく影響することがあります。天気予報とともに、最新の気象情報や大雪や暴風雪についての警報や注意報、また乾燥注意報の発表状況に留意して下さい。